

庄内川の上流・中流地域に住む人達の着意意識 (第1報)

——対象者の属性および衣服の購入行動——

坂倉園江・原田妙子・長谷川紀子・山下知子・山岸香織

Fashion Consciousness of People Inhabiting the Upper and Middle of Shônai River Basin (I)

— Attributes of Subjects and Purchasing Behavior for Clothing —

Sonoe SAKAKURA, Taeko HARADA, Noriko HASEGAWA, Tomoko YAMASHITA and Kaori YAMAGISHI

目 的

社会の変化は目まぐるしく多岐にわたり、そのすべてを理解する事もむずかしい。更に人々の行動はアクティビティ化し、人々の交流のスケールは複雑になり、多くの問題が低年齢化を示している。そうした社会において1つの目印あるいは記号として、人々にのみ与えられた衣服を身にまとうという行為は、大きな役割を果たしつつある。

そうした着意行動を支える意識のあり様は、現在どのようであるのか、ここ数年その解明や、調査も盛んに行われるようになってきた。それらの成果をふまえた上で、平成8年より行われている名古屋女子大学生生活科学研究所の機関研究“庄内川上流・中流地域”の生活環境総合調査に参加し、都市河川約30kmを中心にした広範な地域全般を対象とした着意に関する意識調査を実施した。

庄内川は岐阜県の夕立山を水源とし、岐阜県の南側を西に流下し、西枇杷島あたりから南下しながら愛知県の郡部を経て、名古屋の西南部を伊勢湾に流れ込む都市河川である。

地域は、庄内川上流の岐阜県恵那郡山岡町を起点とした恵那市(庄内川流域である武並・三郷地区のみを対象とした)、瑞浪市、土岐市、多治見市までの3市1町1地区の5地域である。

また、そこに住む人達全般、つまり調査可能と思われる小学生高学年以上のすべての人々を対象とした。すなわち庄内川上流・中流地域の3市1町1地区に住む老若男女を対象とした21世紀を目前にする現在の着意に関する意識の調査である。

方 法

1) 調査内容

着意に関する調査の内容は2つの部分からなっている。

1つは本調査で、衣生活における着意意識を下記の4つのグループに分けて行った。

①衣生活に関する28項目 ②規範に関する27項目 ③流行に関する20項目 ④着意に関する25項目の計116項目について4段階のSD法によるアンケート調査で、この部分は第2報で報告する。

2つ目は、本調査を行うにあたって調査対象者の居住地域・性別・年齢・職業の他、衣生活と関わりの深い衣服の購入方法等は記述式で行なった。第1報では、この部分を報告する。

表1 世帯回収率

	山岡町	恵那市 武並・三郷	瑞浪市	土岐市	多治見市	5市町計
配布世帯数	150	270	335	260	300	1,315
回収世帯数	110	229	320	247	289	1,195
世帯回収率(%)	73.3	84.8	95.5	95	96.3	90.9

2) 調査方法

①調査地域と実施方法

山岡町、瑞浪市、土岐市、多治見市は連合婦人会に全面的に御協力をいただき、地区委員が、それぞれ5、6世帯を担当した上で配布し、約10日後に回収する留置き法である。

恵那市の武並・三郷地区は、市の地方事務所長および公民館館長、自治会の地区委員に御協力いただいた。

②調査時期 平成9年2月～平成10年2月の間に実施した。

③調査対象 各市、各地域の小学校地区を対象とし、1世帯の家族全員（小学生高学年以上）をお願いした。小学生高学年のアンケートは表現や仮名使いを改めている。

3) 調査票配布と回収数

①回収率

配布した世帯数は、3市1町1地区別に、回収率と共に表1にまとめたが、全配布は1,315世帯、回収は1,195世帯で、回収率は90.9%であった。

②有効回答者数は、衣生活に関する質問4つのグループ毎に各1割の未記入のあるものを除いた4,170人で、男女別、年代別人数は表2の通りである。

男女別、年代別（6ないし7段階）の人数は、人数の少ない山岡町や恵那地区に2、3のクラスも含まれるが、その事を一応念頭において傾向を見るという観点で眺めていくことにしたいと思う。

4) 整理の方法

①記述式の5つの質問のうち、“あなたが今日着る服装は誰が決めますか”と、“あなたの服は誰が購入しますか”、“あなたの服はどんな形態の店で購入しますか”についての3項目は、5地域の特徴よりも男女別や、年代間の差が大きいため、男女別と年代別に整理した。年代は9～14歳（小・中学生）、15～19歳（高校生・短大生らの年代）、20歳代、30・40歳代、50・60歳代、70歳以上の6段階に分けた。第1報においては、小中学生の意識を母親との関係で、また服の購入者との関係を考慮する必要も出てくるので9～11歳（小学生高学年）と12～14歳（中学生）に分ける事が好ましいと考えて、7段階で整理している。

②記述式質問のうち、“職業”と、“あなたの服はどこで（地域）購入しますか”の2項目は、直接地域に関わる質問であると考え、5地域別、男女別に年代を分けて整理した。

③以下文中で比率を用いて説明する時、問題を理解しやすくする為、図・表中の数値を整数で表現した。

結 果

1. 調査対象者の“職業”について

今回調査した4,170人のうち義務教育中の児童、生徒605人を除いた3,565人の職業について

表2 有効回答者数（10%未記入を省く）

		山岡町		恵那市 武並・三郷		瑞浪市		土岐市		多治見市		5市町計	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
9～11歳	男	8	6.2	31	9.8	28	5.9	39	14.3	43	11.1	149	9.5
	女	7	4.3	34	8.7	48	6.9	58	7.3	43	7.9	190	7.4
	計	15	5.1	65	9.2	76	6.5	97	9.1	86	9.2	339	8.1
12～14歳	男	6	4.7	17	5.3	32	6.7	19	7.2	28	7.3	102	6.5
	女	6	3.6	27	7.0	37	5.4	34	4.2	60	10.9	164	6.3
	計	12	4.1	44	6.3	69	5.9	53	4.9	88	9.4	266	6.4
9～14歳	男	14	10.9	48	15.1	60	12.6	58	21.5	71	18.4	251	16.0
	女	13	7.9	61	15.7	85	12.3	92	11.5	103	18.8	354	13.7
	計	27	9.2	109	15.5	145	12.4	150	14.0	174	18.6	605	14.5
15～19歳	男	16	12.5	19	6.0	49	10.3	15	5.6	38	9.8	137	8.7
	女	11	6.7	23	5.9	57	8.3	38	4.7	40	7.3	169	6.5
	計	27	9.2	42	6.0	106	9.1	53	5.0	78	8.4	306	7.4
20～29歳	男	16	12.5	23	7.3	45	9.4	27	10.0	23	6.0	134	8.5
	女	20	12.1	35	9.0	93	13.5	103	12.9	53	9.7	304	11.7
	計	36	12.3	58	8.2	138	11.8	130	12.1	76	8.1	438	10.5
30～49歳	男	38	29.7	117	36.9	160	33.5	72	26.6	144	37.3	531	33.6
	女	64	38.8	150	38.7	225	32.6	281	35.1	188	34.1	908	35.0
	計	102	34.8	267	37.9	385	33.0	353	33.0	332	35.4	1,439	34.5
50～69歳	男	39	30.5	85	26.8	122	25.6	86	31.8	93	24.1	425	26.9
	女	44	26.6	85	21.4	157	22.7	260	32.5	133	24.3	677	26.1
	計	83	28.3	168	23.8	279	23.9	346	32.3	226	24.2	1,102	26.4
70歳以上	男	5	3.9	25	7.9	41	8.6	12	4.4	17	4.4	100	6.3
	女	13	7.9	36	9.3	73	10.6	26	3.3	32	5.8	180	7.0
	計	18	6.2	61	8.6	114	9.8	38	3.6	49	5.3	280	6.7
計	男	128	100	317	100	477	100	270	100	386	100	1,578	100
	女	165	100	388	100	690	100	800	100	549	100	2,592	100
	計	293	100	705	100	1,167	100	1,070	100	935	100	4,170	100

男性 1,327 名、女性 2,238 名別に、年代別に整理したのが図 1 である。

まず、図はのせてないが全体でみると、男性は、自営業者が 18%、勤労者のうち正社員（官公庁や私企業に勤める常勤職員）が 47% で、2% がパートで働く人達である。職を持たない人は 10% で人数は 134 名、その中には 70 歳以上の人が 63 名含まれている。女性は、自営業者は 13%、正社員として勤務するのは 23%、パートが 18% であり、職を持たない人は 25% で人数は 560 名、そのうち 143 名が 70 歳以上である。正規の社員として勤務するのは、女性は 23% で、男性 47% の約半数であるが、パートで働く人は男性の 2% にくらべて 18% と 9 倍に達している。バブル景気に湧いたとき、土岐あたりの地場産業であるやきもの工場から、バスで

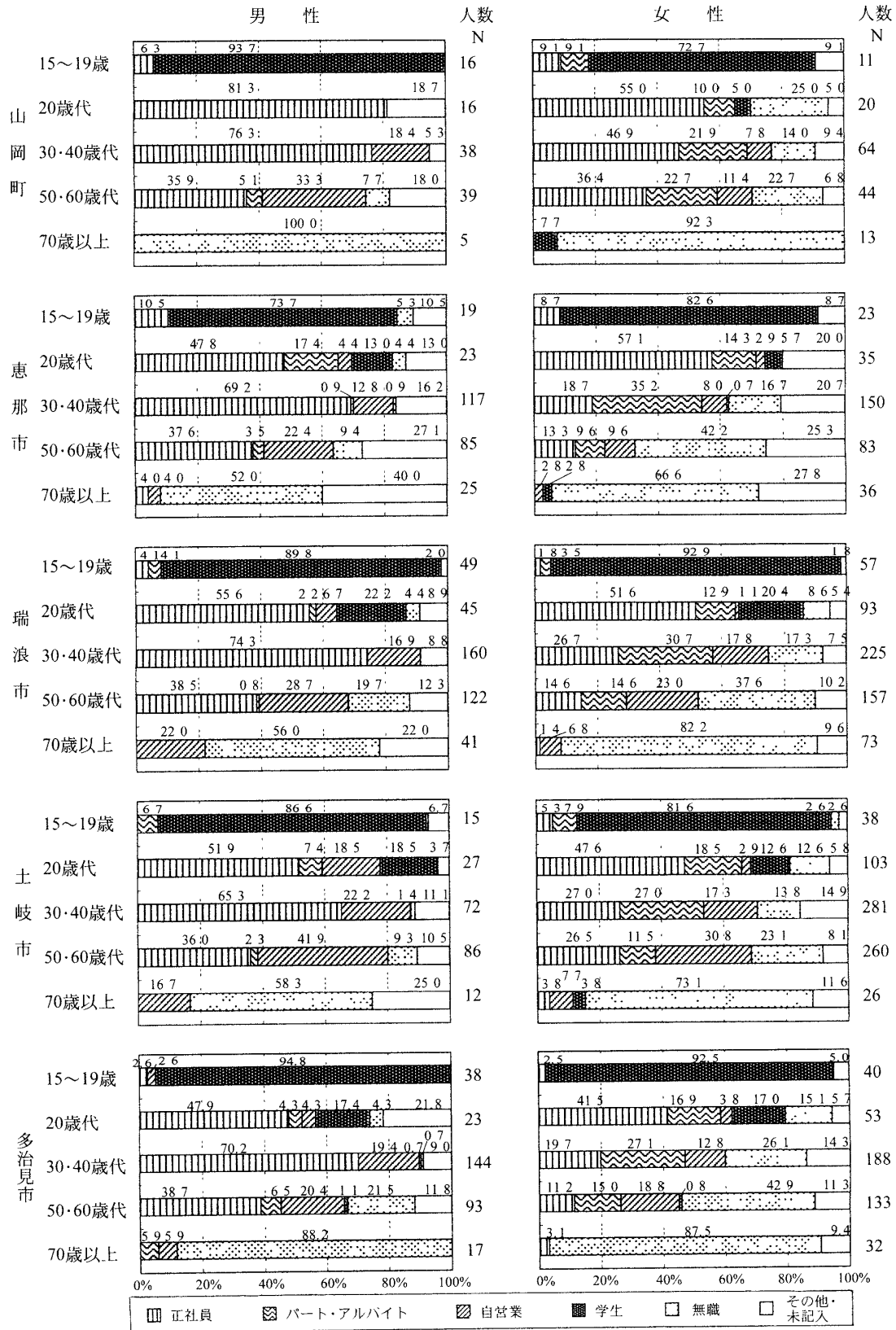


図1 職業

パートの送迎があり、多くの人がパートで働き、経済的にはうるおったと恵那（武並・三郷地区）の人は語る。その後パートの考え方は定着し、恵那の30・40歳代で35%，瑞浪で30%，土岐、多治見も27%ずつが今もパートで働いている。

次いで地域別にみると、土岐の男性は、自営業者が土岐全体で28%（5地域全体では18%）、50・60歳代では42%（29%）をしめ、30・40歳代で22%（18%）、70歳代でも17%（13%）の人が主としてやきもの関連の自営業者であり、他の地区とはやや異なっている。土岐はやきもの街として市も力を入れ、その活性化の為に色々の施策が行われている。土岐は、昔から地区によってどんぶり、とっくり、湯飲み等、製作するものが異なり、昔からの伝統が今も息付いているという（土岐市総務課長大野信彦氏談）。また、山岡町は他の地域と少し異なる。パートをみると30・40歳代の女性22%よりも、50・60歳代の女性が23%と多い。他の地域では、30・40歳代が約30%前後と多く、50・60歳代は13%前後と少ないのである。山岡町は寒天産業を街の中心にすえ、寒天工場や、寒天の特売店等年配の人でも働く事が可能であり、近くで働く場所も存在する事等が手伝っているであろうとおもわれる。その結果、無職の人は少ない。

2. “あなたがその日着る洋服は誰が決定しますか”について

その日着る服は誰が決めるかについてたずねた結果は、地域の差が少なかったので5地域にまとめて男女別、年代別に整理して図2に示した。その結果をみてみると、男性では15～19歳と20歳代が96%、95%、女性では97%、99%と、この年代では、ほとんどの人が自分のその日着るものは自分で決めている。なお、すべての年代の傾向として、女性の方が自分で決める率は高かった。

また、男性は、30・40歳代以後、夫の着るものは妻が決めるようになり、30・40歳代で14%、つづいて17%、18%と高齢者になるほど妻の決める率が少しずつ高くなる。男性に対して女性は15歳以後、高齢者になるまで自分の衣服は自分が決めているという結果であった。

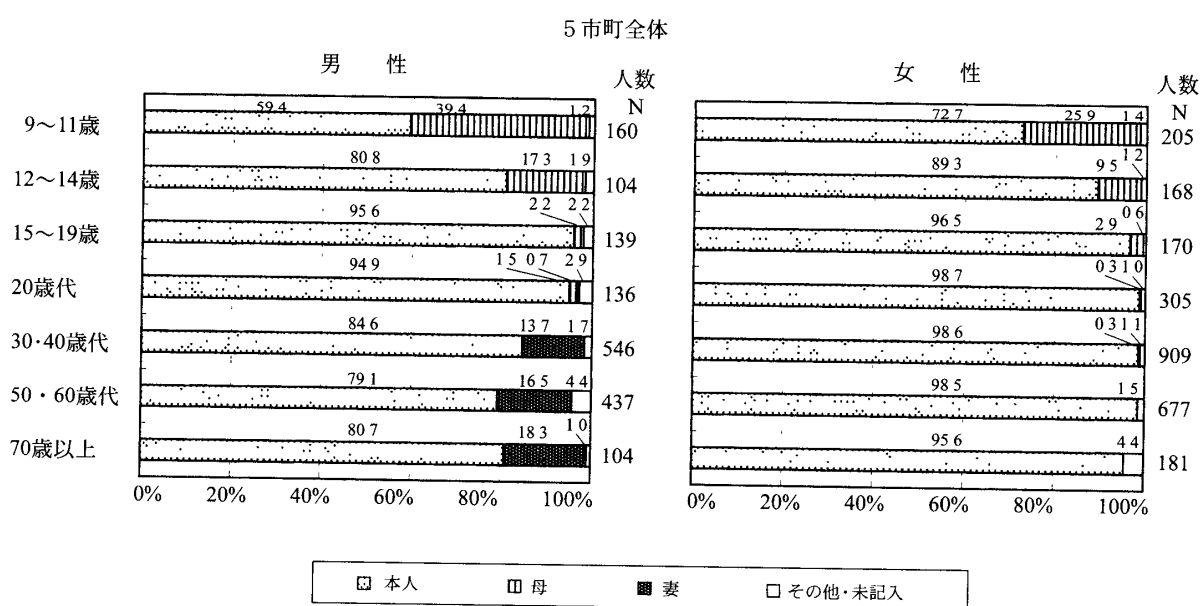


図2 あなたがその日着る洋服は誰が決定しますか

また、母親が決める年代としては、高・短大生ら（15～19歳）は約3%と少ないが、中学生、小学生高学年へと若くなるにつれて、男子が18%、39%、女子が10%、26%と母親が決める率が高くなる。またこの問題に関しては、女子より男子の方が大きく上まわっている。このことを自分の着る服は自分で決めるという率から眺めてみると、12～14歳の中学生では男子81%、女子では89%が、9～11歳の小学生高学年でも男子59%女子73%とそうとう多くの生徒が自分の着る服は自分で決めるという傾向を示していた。衣生活における着装に関する意識は低年齢化が進み、そうした意識は男子より女子に高かった。小学生対象の雑誌もファッションに関するページも挿入しなければ売りにひびくという現代性は、高度に発達した情報社会である現在においては、交通の不便な、また、少し奥まった地域においても変わりがないようである。

地域別にみると、あまり大きな差は認められない。しかし、山岡町は人数が年代によっては、少ないところもあり、同列に比較は出来ない面もあるが、他の地域とはやや異なる。地域別の図示は出来なかったが、一応傾向を整理してみると、女性においてはすべての年代で100%の人が自分の着るものは自分で決めており、男性も12～19歳と70歳以上の年代において100%自分が決めていた。また、瑞浪市の9～11歳の小学生高学年は、母親の決める率が、他の地域の約34%であるのに対して倍近くの65%と多いのが目立っている。

3. “あなたの洋服は誰が購入しますか”について

あなたの服は誰が購入しますかを男女別、年代別に整理し図3に示した。

年代別にみると、最も顕著な傾向を示す、母が購入する割合は、小学生高学年が最も多く、男子88%、68%、36%と中学生、高・短大生らへと減少し、自分の服は自分で購入する割合が7%、26%、61%と増加していく。女子は母が購入するのが81%、62%、29%と減少し、自分で購入するのが12%、30%、71%と増加していく。この年齢が高くなる程、自分の服は自分で購入するという人が小学生高学年から中学生へは約20%、中学生から高・短大生らへは約40%も増加し、急速に着装に関する自主性をのばしていくのが確認できる。20歳代では最

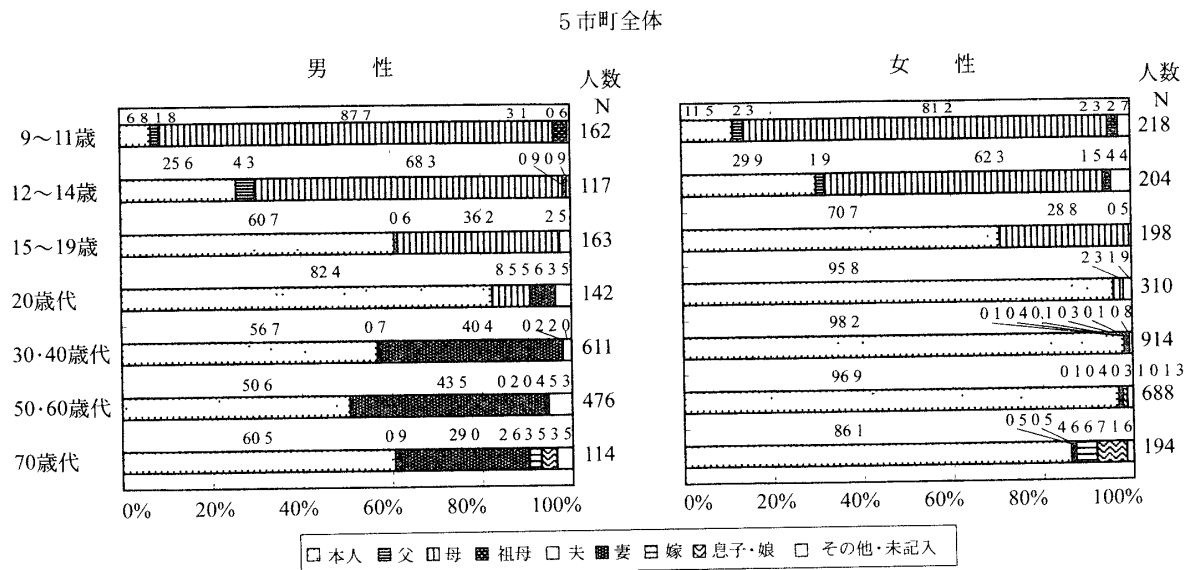


図3 あなたの洋服は誰が購入しますか

もその傾向が顕著になり、男性の82%、女性の96%が自分の服は自分で購入している。なお、購入についても男性より女性の方が多いという傾向は服の決定者に比べ、より顕著であった。

男女別にみると、成人後、つまり20歳代以降年齢の高いグループでは、男女異なった動きを示す。男性では、夫の服は妻が購入する人達の割合が20歳代から年齢が高くなるにつれて徐々に増加し、20歳代で6%であったものが、30・40歳代では40%、50・60歳代では44%と、ほぼ半数に近い人達は、妻が購入するようになる。それに対して女性は、20歳代、30・40歳代、50・60歳代では、ほとんど全員に近い96%、98%、97%の人達は自分の服は自分で購入している。また、70歳以上の男性では妻の購入する割合が、50・60歳代より16%程減り、自分で購入する割合が10%増えている。更に、女性10%、男性6%の人達は、娘や嫁が購入するようになる。これらのことは、70歳以上ともなると女性の体調や、それにとまなう生活意識、生活能力が退化しはじめ、娘や嫁の世話を必要とする人達が増えてくるものと思われる。また、9～14歳の年代（小・中学生）では多くを母が担っているが、父や祖母が購入する人達が、男女ともに約5%程は認められた。

地域別に見ると、あまり大きな差は認められない。しかし、小学生高学年の動きを少し詳しくみると、恵那市以外の地域では、成人と同様男性に比べて女性の自主性が強い傾向を示すのに対して、恵那地区だけは男子20%、女子3%と自分の着る服は自分が購入するのは男子の方が多いという結果であった。

4. “あなたの洋服はどこで購入しますか（場所）”について

どこの町で購入するかについては、地域との関係をたずねる質問のため、地域毎に図示し、検討した。（図4）

まず5地域全体で眺めてみると、山岡町を省く4地域はともに地元で購入する人が最も多く、なかでも多治見は男女ともに60%をこえている。名古屋で購入する人をみると、男性が恵那（武並・三郷地区）と瑞浪がともに10%、土岐は12%、多治見は13%である。それに対し女性は、恵那（武並・三郷地区）11%、瑞浪14%、土岐17%、多治見20%と、いずれも女性が多く、男女ともに名古屋に近づくに従って、名古屋での購入者は増えている。これを年代で見ると、地域によってやや異なるが、15～19歳の高・短大生らの年代と20歳代において名古屋で購入する人が最も多く、地元で購入する人が少なくなっている。そして、20歳代より年代が若くなる程、また年代が高くなる程、地元での購入が増え、名古屋での購入者は減少していく。高・短大生らの若い年代が、ファッションに強い関心を示す現代を、通勤の範囲内でもある大都市名古屋での購入者が多いという形で反映しているようである。

次いで、地域毎に特徴的なことを整理すると、山岡町は寒天を地場産業とし、最上流地域という事もあってか、ファッション性の高い衣料品店も少ない。そのため、地元での購入は、ほとんど無いといってよい。しかし、女性の中・高年の年代になると30・40歳代はわずかに3%であるが、50・60歳代では14%、70歳以上は19%と比較的多くの人が地元の山岡町で購入するようになり、主としては近隣の恵那市や瑞浪市で購入し、70歳以上では春日井での購入が31%と急に多くなる。恵那地区（武並・三郷地区）の特徴としては、男女とも地元での購入は多治見についで多く、恵那地区全体で約60%が地元で購入し、約10%の人が名古屋で購入している。瑞浪市では、瑞浪市全体で整理すると40～50%の人が地元で購入し、交通の便も良いこともあってか、広範囲な購入行動をとっており、多治見で15%前後、土岐で12%前後、名古屋でも男性10%、女性14%が購入している。土岐市では、地元で40～45%、多治見で25

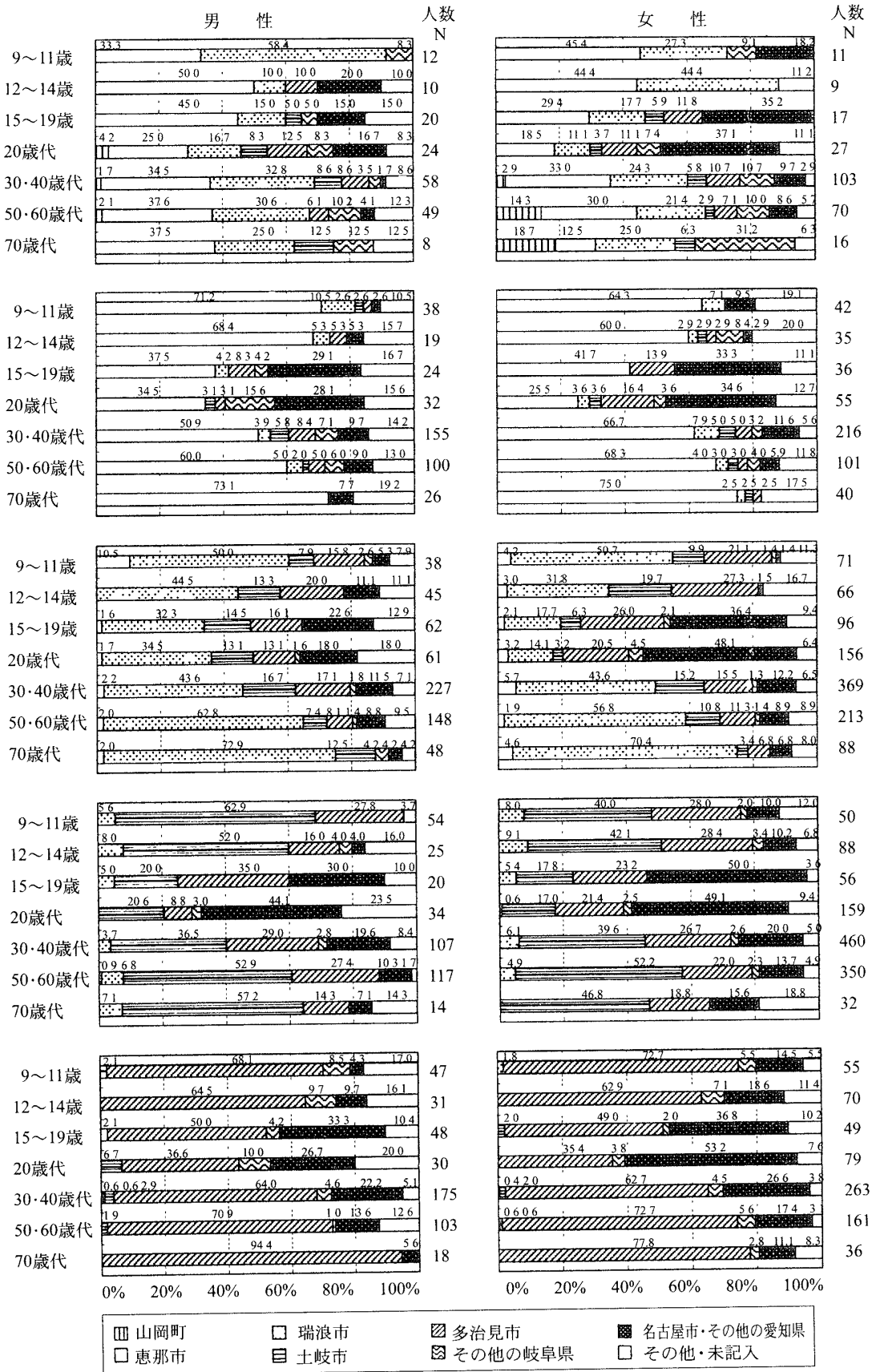


図4 あなたの洋服はどこで購入しますか(場所)

%前後、名古屋では男性12%、女性17%が購入している。多治見市は、今回調査した最も下流で都市化も進み、地元の衣料を扱う大きな店舗も多い。そのため、地元で購入する人は、男性全体で64%、女性全体で63%と多い。また、名古屋に近いこともあり、男性全体で13%、女性全体で20%が名古屋で購入している。なお、年代別の傾向は、最初にまとめて前述したのでここでは省く。

5. “あなたの洋服はどこで購入しますか（店舗）”について

あなたの服はどこで購入しますかを年代別、男女別に整理し、図5に示した。その結果、傾向としては男女よく似てはいるが、少し詳しく購入行動についてみると、スーパーで購入するのは20歳代が最も少なく、男性17%、女性14%であり、年齢が若くなるにつれて多くなる。男性の15～19歳は、28%、12～14歳は47%、9～11歳の小学生高学年は64%と男女合わせても最も多く、女性は21%、52%、54%であった。また、30～40歳代以上の高齢者では、男女いずれの年代においても約40%前後の人はスーパーで購入するという結果であった。

デパートで購入するのは、スーパーとは逆に20歳代と15～19歳が最も多く、男性はともに12%、女性は31%、29%であり、その他の年代においても男性に比べて女性は、デパートでの購入が多いという傾向であった。また、70歳以上になると、男女ともデパートで購入する人は非常に少なくなり、男性においては瑞浪市以外の4地域で、女性も山岡町、恵那地区においては1人の利用者もいなかった。

専門店で購入する人は比較的多く、専門店を利用するのは、女性に比べて男性が多い（9～11歳を除いて）。とくに20歳代においては、女性40%に対して男性は58%と、18%も多い。また、20歳代を省くと15～19歳以降の高年齢層においては、女性は約30%代の人が利用するのにに対して、男性は40%代が多く、いずれの年代においても男性が多かった。

大型量販店で購入する人は少なく、女性にはほとんどいない。男性も小学生高学年と、30～40歳代以上の高年齢層に1～2%程度存在するのみである。詳しく地域別に調べてみると、恵那地区の高齢者層にやや多く、それでも3～4%程度である。また、年代的に1～2%の利用

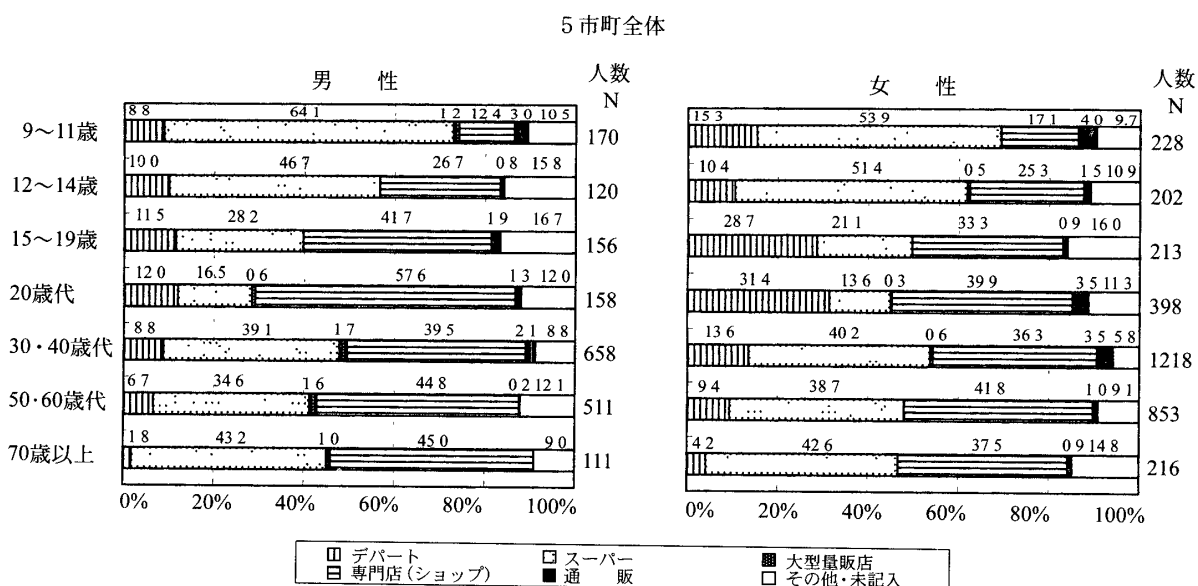


図5 あなたの洋服はどこで購入しますか(店舗)

者がいるのは、30・40歳代が山岡町、瑞浪市、土岐市で、多治見市は50・60歳代に、いずれも1～2%程度の利用者がいた。

通信販売は、ここ2・3年急に盛んになり、テレビでも有名な芸能人を使っての通販の番組が民放において目立つようになってきた。そこでその通販の利用状況をみると、人数的にはあまり多くはないが、50歳以上の高齢者の男性を除き、男女ともすべての年代に購入者はいるようである。通販を利用する人を年代でみてみると、最も多く利用するのが9～11歳の小学生高学年で、女子4%、男子3%で、次いで多いのは30・40歳代の女子4%、男子2%であった。図はないが、地域的には恵那地区の小学生高学年に多く、9～11歳男子が8%、女子が5%であった。その他利用者の多い所をひろってみると、瑞浪市の30・40歳代の女性、土岐市の20歳代と30・40歳代の女性、多治見市では男女ともに、49歳以上の若年層の間では、4%前後の人が利用している。5地域全体(図5)でみると平均化し、やや少なくなるが、通販を利用するのは、男性より女性がやや多く、年代的には高齢者層に通販の利用者はほとんどなく、若者や壮年層にやや多いという傾向であった。

要 約

庄内川上流・中流地域に住む4,170人の衣に関する意識をアンケート調査した。調査は、山岡町、恵那地域、瑞浪市、土岐市、多治見市の9～87歳の男性1,578人、女性2,592人で年齢を7段階に区分した。職業は4種類に分類され、多治見の都市化傾向や、地場産業、やきものを中心とする地域と就労形態との関係が浮かび上がっている。

衣服関連についてみると、まず、今日着る服の決定者と、その服の購入者の傾向は似ていたが、自分の着る服を母や(14歳以下)、妻(30歳以上の男性)が決める率が高い。しかし、購入者としての母や妻は更に多くなる。14歳以下では父や祖母が、70歳以上になると男女とも娘や嫁が購入するようになる。衣服の調達等は、今も女性が多くを担っているようである。しかし、小学生も約60%と多くの者が自分で決めており、上流中流地域による差は少なかった。

衣服は高齢者層の人達が地元で購入し、地域的に名古屋に近づくに従って名古屋で購入する人が多くなる。この傾向は男性より女性の方に多い。また、購入する店舗は、デパートが15～20歳代で多く、若年層、高齢者層になる程少なくなり、スーパーは逆の傾向を示す。専門店では比較的多くの人々が購入し、女性に対して男性の利用者がやや多い。また年代的には20歳代が最も多く、若年層は少なくなり高齢者層は20歳代と同様の傾向を示している。

今回この調査を行うに当たり、婦人会や自治会にも御協力いただき、多大な成果を上げることが出来たと深く御礼申し上げるとともに、各市役所・町役場の御参同をいただいた事の意義もまことに大きく、この後更に検討を加えてご報告するつもりである事をつけ加えて、調査者全員で深甚なる謝意を表します。